

Y K K 六甲株式会社

EA21

# 2024年度 環境経営レポート

(対象期間：2024年4月～2025年3月)



発行日：2025年6月2日

# I. 環境経営方針

## <環境経営理念>

私たちは、環境負荷の低減が恵み豊かな地球環境を守るための重要な課題と認識しており、本業である印刷物の生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

活動内容は、環境経営における課題やチャンスを定期的に見直すことで明確にし、効率よく、無駄なく、タイムリーに、YKK六甲全社一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

## <環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）

◇電気の節約      ◇ガソリン使用量の削減

②廃棄物排出量削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）

◇廃棄物の発生そのものを抑える取組      ◇リサイクルの促進

③水使用量の削減（水資源の保全）

◇水の効率的利用及び日常的な節水

④化学物質の適正管理

◇PRTR制度対象物質含有製品の使用量把握  
◇印刷材料のリスクアセスメント

⑤生産効率の向上

◇営業活動による受注数増加      ◇トラブルの抑止      ◇不良品の抑止

⑥環境活動

◇周辺地域への貢献活動

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。

本方針を全従業員に周知いたします。

制定日：2009年8月8日  
改定日：2023年11月17日  
代表取締役社長 小山 将志

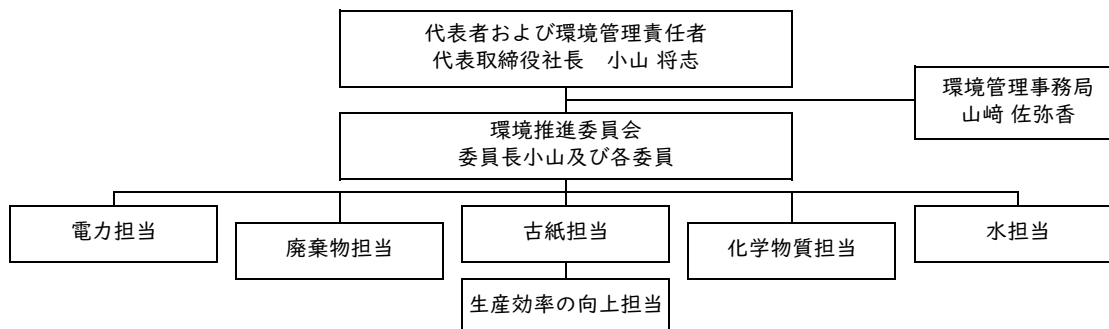
## II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名  
YKK六甲株式会社 代表取締役社長 小山 将志
- (2) 所在地  
〒658-0033 兵庫県神戸市東灘区向洋町西4丁目2番地
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先  
責任者：代表取締役社長 小山 将志 TEL:078-857-3050  
担当者：環境・安全衛生 山崎 佐弥香 TEL:078-857-3050  
E-Mail : s\_yamasaki@ykkrokko.co.jp
- (4) 事業内容  
印刷業（取扱説明書・カタログ類・社内報）、WEBサイトの企画・運営、書類保管受託業、ビス袋詰作業、現物カタログ製作
- (5) 事業の規模  
製品出荷額…………… 416百万円 (2024年度実績) 従業員……………27名  
主要製品生産量… 184トン (2024年度実績) 延べ床面積……………1,713㎡
- (6) 事業年度 4月～翌年3月

## III. 認証・登録の対象範囲

対象事業所： 本社  
活動： 印刷業（取扱説明書・カタログ類・社内報）、WEBサイトの企画・運営、書類保管受託業、ビス袋詰作業、現物カタログ製作

## IV. 環境経営実施体制

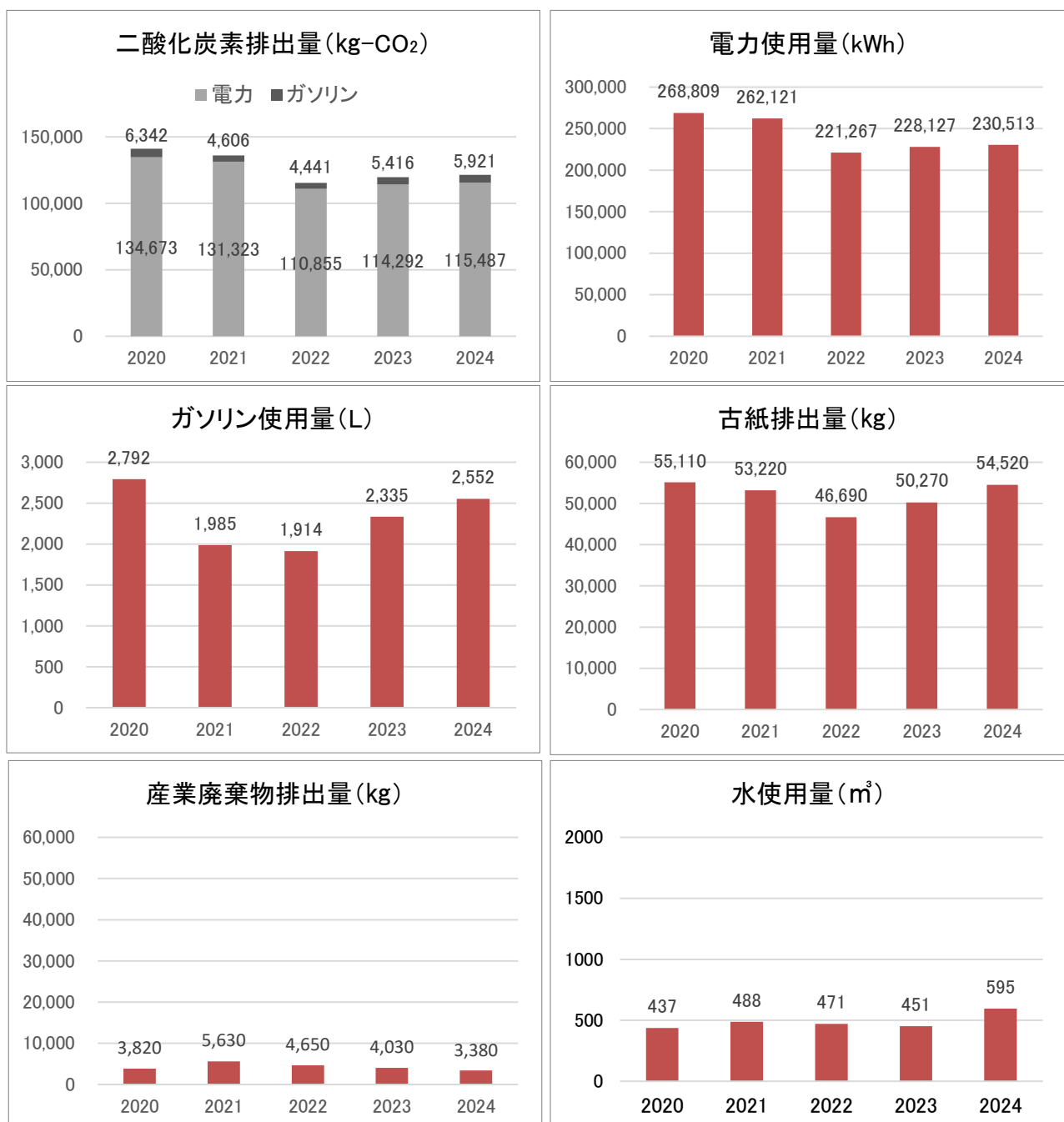


	役割・責任・権限
代表者	環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンス明確化 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括
環境管理事務局	環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 環境教育訓練計画の作成と実施の管理 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
環境推進委員会	環境経営目標・環境経営計画書の審議 環境活動の実施状況の評価、見直し 環境教育の内容検討、実施結果の評価 特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む）
全従業員	環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

## V. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	135,463	135,929	115,296	119,708	121,408
・電力	kWh	268,809	262,121	221,267	228,127	230,513
・ガソリン	L	2,792	1,985	1,914	2,335	2,552
廃棄物排出量	kg	—	60,304	52,067	55,002	58,418
・古紙排出量	kg	55,110	53,220	46,690	50,270	54,520
・産業廃棄物	kg	3,820	5,630	4,650	4,030	3,380
・一般廃棄物	kg	—	1,454	727	702	518
水使用量	m <sup>3</sup>	437	488	471	451	595
化学物質(含有量)	kg	—	—	—	165.6	185.8
新規受注件数	件	—	—	—	21	26

### ◆参考グラフ(年度別実績)



## VI. 環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値	2024		達成度 評価	2025 目標	2026 目標	
			目標	実績				
I. 二酸化炭素排出量	合計	kg-CO <sub>2</sub>	118,733	117,590	121,408	97%	116,447	116,447
		基準比		99%	102%	△	98%	98%
	電力使用量削減 (2023年度基準)	kWh	228,127	225,846	230,513	98%	223,564	223,564
		kg-CO <sub>2</sub>	114,292	113,149	115,487		112,006	112,006
	ガソリン使用量削減 (2022年度基準)	L	1,914	1,914	2,552	75%	1,914	1,914
		kg-CO <sub>2</sub>	4,441	4,441	5,921		4,441	4,441
	基準比		100%	133%	×	100%	100%	
II. 廃棄物排出量	古紙排出量削減 (2023年度基準)	kg	50,270	49,767	54,520	91%	49,767	49,265
		基準比		99%	108%	×	99%	98%
	産業廃棄物削減 (2023年度基準)	kg	4,030	3,990	3,380	118%	3,990	3,990
		基準比		99%	84%	○	99%	99%
	一般廃棄物削減 (2023年度基準)	kg	702	702	518	136%	702	702
		基準比		100%	74%	○	100%	100%
III. 水使用量削減 (2022年度基準)	m <sup>3</sup>	471	462	595	78%	462	462	
	基準比		98%	126%	×	98%	98%	
IV. 化学物質適正管理 (2023年度基準)	kg	165.6	165.6	185.8	89%	165.6	未定	
	基準比		100%	112%	×	100%	未定	
V. 生産効率向上 (新規受注数) (2023年度基準)	件	21	21	26	124%	21	未定	
	基準比		100%	124%	○	100%	未定	

注) 評価…○：達成度100%以上、△：達成度95%以上100%未満、×：達成度95%未満  
注) 電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度日本テクノ実績値0.501kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用

## VII. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

取組計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
<b>二酸化炭素排出量の削減</b>	やや未達成	
・下記の通り。	△	下記の通り。
<b>電力使用量の削減</b>	やや未達成	
・電力測定による見える化	○	測定結果と機械稼働時間を分析し見える化進む。継続。
・太陽光発電導入に向けた準備	△	情報収集中。次年度も引き続き準備を進める。
・退社時の消し忘れ防止の実施	○	今後も定期的に呼びかけを行う。
・トラブル、不良品の抑止	○	定期的メンテによりをトラブルからの復旧時間が短縮。
≪未達成の原因≫繁忙期と空調の故障が夏場に重なり使用量増加。しかし、売上増加により経済的効率は良好。		
<b>ガソリン使用量の削減</b>	未達成	
・エコドライブの推進	○	意識をしてエコドライブを推進している。
≪未達成の原因≫社用車での出張が増えたことにより使用量が増加した(基準7回→今年度13回)。		
<b>古紙排出量の削減</b>	未達成	
・種類別排出量把握、分析	○	今後更なる見える化を行う。
・適正予備率の見極め	○	予備10%→6%まで削減できるようになった。今後も継続。
・印刷刷り始めのペケ紙利用	○	今後も継続する。
・トラブル、不良品の抑止	○	印刷ローラー調整&グリス投入早めたことでトラブル抑止。
≪未達成の原因≫仕事量増加および、初めての単発の仕事で不良が発生したことにより未達成。		
<b>産業廃棄物の削減</b>	達成	
・廃パレットの返却	○	製紙会社による木パレ回収を今後も継続。
≪達成の要因≫産廃置き場の改善により回収頻度が低減したことが一番の要因と思われる。		
<b>一般廃棄物の削減</b>	達成	
・分別の徹底	○	回覧板による分別間違いの周知を今後も継続。
≪達成の要因≫コロナ対策の緩和により、使い捨て日用品の一部使用を廃止したことが要因の一つ。		
<b>水使用量の削減</b>	未達成	
・雨水利用に向けた準備	△	次年度は実施につなげていきたい。
・水漏れチェック及び水漏れ防止	△	毎日のメーターチェック、水栓見回りを実施。今後も継続。
≪未達成の原因≫敷地内植え込みにある水栓の止め忘れが原因で使用量が増加。		
<b>化学物質の適正管理</b>	—	
・リスクアセスメント及び個人ばく露測	○	新規導入品のRA、保護具の使用、ばく露状況聞き取り実施。
<b>生産効率の向上</b>	現状把握	
・新規受注件数の把握	○	データ収集を進めた。

◎：よくできた ○：まずまずできた △：あまりできなかった ×：全くできなかった

## Ⅷ. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物収集業者の許可の確認、産業廃棄物収集運搬・処理業者の許可の確認、書面契約、保管基準の遵守、マニフェスト交付・保管、処理業者の現地確認、処理困難通知への対処	○
騒音規制法	指定地域内の特定施設の届出、規制基準の遵守	○
労働安全衛生法	化学物質のリスクアセスメントの実施、ストレスチェック制度の実施	○
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の簡易・定期点検の実施、漏えい発見時の対応、点検整備記録簿の記録・保存、算定漏えい量の報告、廃棄する際のフロン類の回収（対象機器：業務用空調機、圧縮機）	○
消防法	消防設備の定期点検（消火栓、火災報知器、消火ポンプ、消火器）、消防訓練	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。  
 なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

## Ⅸ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

仕事量の増加により、電力使用量や古紙排出量は目標達成に至りませんでした。しかしながら、残業の抑制やオペレーターの技術向上による印刷用紙の予備率削減、補刷の減少は順調に進んでおり、その結果は経済的効率に現れています。

引き続き、電力においては電力測定を継続して数値把握と分析に取り組み、再生可能エネルギーの導入に向けた情報収集を行います。古紙においては適正予備率の設定を目指し投入数の見直しを行う一方、マルチドット導入による効果を数値化できるよう取り組みます。

産業廃棄物は、“湿し水”の安定による排出量低減や産廃置き場の改善、料金形態の従量制化により回収頻度が減少し、結果的に削減できました。

水は、散水栓の止め忘れに気付かず大きく増加し達成には至りませんでした。その後はしっかり対策を行い、実行できています。このようなことは二度と起こさないよう管理を徹底し、昨年からの準備を進めている雨水利用の実施を進めていきます。

引き続き、社員を巻き込んだ活動を目指し意識向上に努めていきます。

項目	見直し要否	見直し内容
環境経営方針	否	—
環境経営目標	否	—
環境経営計画	否	—
実施体制	否	—
その他	否	—

2025年6月2日  
 代表取締役社長 小山将志

## X. 環境活動の紹介



### 【デマンド警報器の活用】

電力会社のモニター付きデマンド警報器やネット上で電力使用状況を閲覧できるサービスを活用し、デマンドの抑制や分析等に役立っています。



### 【グリーンカーテン】

今年の夏も朝顔やクライミングテラスのグリーンカーテンを設置。窓からの直射日光が遮られ、見た目にも涼しく感じました。



### 【ビオトープの環境維持】

季節ごとの風景を楽しむため、定期的に植物の手入れを行っています。



### 【清掃活動】

月1回の清掃活動を継続しています。



### 【消防訓練】

年1回、避難・通報・消火訓練および、AEDを使った救命講習を実施しています。



### 【個人ばく露測定】

化学物質のリスクアセスメントでは3年に一度、有機溶剤の個人ばく露測定を実施しています。また、騒音作業環境測定は、個人のばく露状況を確認するため、個人ばく露測定に変更して測定を行うこともあります。